

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370102364		
法人名	社会福祉法人 義風会		
事業所名	足守荘グループホーム		
所在地	岡山市北区下足守1898番地		
自己評価作成日	平成21年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成21年12月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人全体の理念『生きがいの探求、生きがいの創造』を基本に、グループホームの理念である  
 『1.入居者が主体となるグループホーム 2.入居者が日々穏やかに過ごせるグループホーム  
 3.コミュニケーションを重点に置き、心のケアができるグループホーム 4.入居者が望まれる事を把握し、対応できるグループホーム 5.気軽にいろいろな方が立ち寄れるグループホーム』を職員全員が共有し、個性を尊重した家庭的で暖かいケアの提供を目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者を中心に、認知症ケアに前向きなスタッフが一つになり利用者を中心としたケアが実践されていました。開設されて10年と歴史がある施設です。歴史のある施設にありがちなマンネリ化した空気がありませんでした。企業内での人事異動をうまく活用し、常に新しい目線でグループホームを改善できるような人事がなされ、いい人事異動の効果があらわれているように思いました。介護は一人ではできないチームで対応の想いが、大切にされたケアが実践されていました。利用者の穏やかなほほえみが、そのことを語っていたように感じました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で取り組んでいる「地域づくり」を基本に「気軽にいろいろな方が立ち寄れるグループホーム」を目指して職員の意識統一を図っている。	事業所内研修に参加しその中で理念の教育もあり職員が理念を理解し意識をしながら仕事に取り組めるように企業全体で努力されていました。また現場では、管理者が常に理念を念頭に置き、日々の業務に反映できるように声かけ指導をしているとのことでした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々による来訪や保育園児や学校の生徒との関わり、お祭りなどの行事での地域の方々とのふれあいがある。	事業所が開設されて約10年と歴史があり、地域の協力者との連携も十分とれていました。ボランティア等の参加も非常に盛んでした。移動商店が来所し利用者も職員と一緒に利用しているとの事でした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生・大学生の実習生の受け入れや職業体験、理美容の訪問など地域への開放に向けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、運営方針や評価結果や事業所よりの報告等話し合い、委員さんより意見を頂きサービスの質の向上を図っている。	行政の参加がなかなか難しいとの返事でした、推進会議のメンバーは多彩で地域の方は積極的に参加して下さるとのご返事でした。運営推進会議を十分に活用できているのか少し不安に思われていました。	今後とも運営推進会議で出た意見を事業運営に活用してください。反対に事業所運営で困ること課題を運営推進会議に出して委員の方に協力を得る体制を作ってください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的なベッドの空き状況の報告や事故報告を行っている。今後更に密接な協力関係が得られるよう努力していきたい。	行政との連携がどうしても大きな市になると難しいようですが、努力はされているようでした。	市との連携はなかなか難しい課題ですが、今後とも市の担当者へ事業者の側から連携をもとめてください。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現実行っておらず、職員の見守りを徹底し、外出しようとする方にはさりげなく付き添っている。随時職員同士で意識確認を行っている。	身体拘束はないのが当たり前と考えている。特に声かけにも注意をし、必要な時には管理者が直接職員に注意をするなど、日常業務の中で徹底されていました。マニュアルも作成し教育している。	「身体拘束」の持つ意味をより深く見つめていただき、今作成しているマニュアルを基に、より職員教育に力をいれていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、職員の言葉や態度により苦痛を与えてしまうことなど随時話し合い、職員個々で意識してケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会は行っているが、実際には経験がなく、必要時支援できるように今後も知識を見に付けていくよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の対応方針や出来ることや出来ないことなど詳しく説明し、利用者の不安や疑問に応え、同意を得て次につなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との定期的な連絡で要望を聞いたり、来所時の会話の中で汲み取った思い・希望などを職員に伝え話し合っサービスに反映させている。	面会用紙の書式を変更し面会者の意見を記入していただく欄を作り、意見をいただいている。来所時職員が直接お話をさせていただきタイムリーに意見を聞いていて、運営に生かされていました。	利用者：家族が100%満足することは難しいけれど、困難な事例こそ職員、管理者がひとつになり対応していただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者を含めた話し合いの機会をもち、職員の意見や要望を聞いている。月1回は事業所内でミーティングを開き個々の思いが話せるようにしている。	管理者を中心に、職員の思い：業務の不満：ストレスとスタッフとのコミュニケーションを図りながら改善方向に努力されていました。職員と管理者との関係が非常によかったです。チームとして一つになり常に利用者様を中心としたケアが実践されていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲を持ち、前向きな姿勢で職務に取り組めるよう、環境作りに努めている。資格取得に向けての支援も行き、本人の意向を確認しながら労働環境を整えている。。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加を推奨し、研修後は報告書を提出し他職員に伝達している。法人内の研修も定期的であり、月1回はホームでテーマを決め勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所との交流をもち、ケア方法や悩みごとなど話し合い、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、ご本人・ご家族に生活状況、心身の状態、想い等話を聴き安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、ご家族の要望や困っていることを理解して、事業所として出来ることと出来ないことを説明して今後に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の状況や想いを確認して、希望されるサービスの選択肢を提示し、必要であればケアマネージャーにつなげる等対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽が共に分かち合える家族的な関係作りを行っており、人生の先輩であるという尊敬の念は常に職員が共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時はもちろん、定期的に家族にTEL連絡を行い、近況報告を行い、細かな変化もお伝えしている。密に連絡をとることで家族とも良い関係が築けるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院へ行ったり、昔馴染みのお友達が遊びに来られるなど、その人の生活を尊重している。	家族をはじめ、ボランティア・友人・近所の移動店舗の方など、多くの方との交流があるようでした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの個性を大切に、円滑な人間関係が保て、利用者同士が穏やかな生活が送れるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活状況や習慣等詳しく情報提供してアセスメント・ケアプランを渡し、新しい場所でもスムーズに生活できるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に聞いたり、理解困難な方には日々の観察により意向や思いを推察し、また家族に確認するなどして把握に努めている。。	日常生活での、会話を楽しみながら意向を聞き自由な暮らしができるよう支援している。利用者の細かな部分までの聞き取りを重視していました。個人生活歴も考慮をされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族・親族・知人に理解を得て情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で利用者ひとり一人の生活リズム、心身の状態をみながらできることを行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に思いや意向を確認して、職員全員で検討し作成している。日常の何気ない会話や家族の話の中に思いを汲み取りカンファレンスに反映させている。。	ケアプラン:介護記録をもとに介護計画に生かしておられました。日常業務の中で記録された細かな利用者の言葉、行動を見逃さないように業務日誌の記入にも努力されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケースファイル、ケアプランファイル、食事・水分量、バイタルチェック等記録しており、職員で共有している。状態変化時は毎日の申し送りやノートで全員に伝えている。勤務開始前確認。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急性や家族の状況に応じて通院や送迎等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の活用や地域ボランティアさんのレク活動などの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望される医師や医療機関で受診して頂いている。事業所の医師との連携もある。原則受診対応は家族だが、状況に応じ職員が代行している。	かかりつけ医は往診してくれる。利用者の情報提供も口頭ではあるができていました。他の病院への受診時には必ず担当が状況説明書を作成してくださるとのことで医療連携が十分とれていました。	利用者の状況説明を口頭ではなく、文章として残していくことにより記録が残りケアの連続性につながるのでは。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、日頃の健康管理や医療面での相談や助言ももらっている。異常時も連絡し適切な医療に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時には医療機関との情報交換を行い、家族との密な連絡を行い、スムーズな退院が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意志確認書を作成して、随時確認連絡を行いながら、医療との連携を図っている。事業所で可能な対応についても説明している。	延命についての話し合いをしている。状態の変化は法人内での連携は取れている。看取りの実績はこれまでにないようである。	ターミナルケアの必要性はこれから高くなるので前向きに取り組んで頂きたい。については、まず終末期に向けた職員の意識教育に取り組んで頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については頭での知識はあるものの、実経験が不足している為、今後勉強して実際の場面で活かせるよう習得することが必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方、通報のやり方などを定期的に訓練している。	法人内で共同訓練が実施されていました。災害時対応のマニュアルも作成されて、職員が見える場所に掲示されていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の利用者への声かけや援助は場面に合わせてさりげなく行い、本人の意思や行動を大切にしよう配慮している。	「親しき仲にも礼儀あり」の言葉のように利用者様個々の、個性を大切にしながら言葉かけ、誘導等にも細やかな配慮がなされていきました。個人の行動パターンに常に合わせて対応ができていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせてコミュニケーションの工夫を行い、答えやすいように声かけをしている。必要に応じてホワイトボードでの筆談も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはあるが、個々の体調や習慣、意向を確認しながら自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族がこだわっておられる髪型の要望を伝えたり、馴染みの美容院で毛染めやカットが出来るよう支援している。基本服は自分で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会や季節の行事日など利用者の希望を訊き、一緒に料理やケーキ作りを行い、盛り付けを工夫し楽しく頂いている。食器拭きなど後片付けも一緒にしている。	一人ひとりのペースに合わせた配置で調理、盛り付けは工夫されている。食事中にも声かけをしたり、和やかな空気のなかで食事をされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスを考え、個人の嚥下機能に合わせた調理方法で提供している。摂取量も毎日記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし洗面所で行ってもらっている。不十分な方に関しては指示を出したり二度洗いしている。定期的に義歯洗浄剤で清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた紙パンツやパット類を使用して定時声かけをして誘導している。訴えない方には排泄リズムを把握し、トイレ介助を行っている。	個々にあった排泄誘導している。本人の希望に沿った支援に努め自信が持てるよう、優しい言葉掛け：見守りがなされていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認しながら、水分摂取を勧めたり飲み物やおやつなどの工夫をしている。ご本人の状態を観察して看護師や医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調観察を行いながら、精神面にも配慮して行っている。拒否のある方にも声かけや誘導を工夫して無理強いをしないよう心がけている。	安全確保に努め個々の入浴習慣に沿ったゆったりとした時間が過ごせるよう配慮されていました。入浴困難な方には職員2名で対応するなど、いろいろ工夫がされていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本日中はレクや手作業をして活動的に過ごせるよう生活リズムを整えているが、ご本人の体調や意思により自由に休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして全職員が確認できる体制を作っている。変更時は詳細に体調観察を行い医師・看護師・家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、好きなことを楽しんで頂けるように支援している。ご本人に無理の無いように、個々に出来る家事手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉狩り、お祭りなどの行事、買い物等外出出来る機会を作っている。	個々の利用者に合わせた対応ができていました。家族と協力し外出支援に努力されました。地域の行事にも積極的に参加され、利用者の外出機会の幅を広げる努力がされていました。	家族の協力も得てできる限り本人の希望が叶うよう配慮し、満足感を感じていただくように努力していただきたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や近くのスーパー等で自分の好きな買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたり、手紙や葉書を出して頂けるように支援している。電話でご家族とお話されることで不安が軽減され落ち着かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室の前には手作りの季節のリースを飾り、利用者さんと一緒に作った月毎の壁画を貼り季節感を出している。絵手紙や貼り絵などの作品も飾り利用者や来訪者の目を楽しませている。	職員手作りの作品がとても目をひき楽しい空間作りができていました。限られた空間でどうすれば利用者様に喜んでいただき、日々楽しく過ごしていただけるのかという職員の熱い思いがあふれていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間的に狭いが、廊下にソファを置き、仲の良い利用者同士が話したり、一人になりたい時利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用していたものや好きな物、家族の写真等ご本人が自分の好みで飾りつけをされている。	居室は個々の個性が活かされている。自然体で自由な暮らしができるよう支援し、強制ではなく、利用者本位の見守りのケアが実践されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの作品を入り口ドアに飾って目印にししたり、分かりやすいよう張り紙をしている。		